



心のつながりを育む「感謝の思い」

新型コロナウイルス感染予防に係るまん延防止措置期間が延長されて3月6日(日)までとなりました。学校においては引き続き、お子様・保護者様の健康安全を第一に考え、マスクの着用、手洗いの励行、換気の徹底などを行いながら教育活動を推進していきます。

さて、日常生活では「新しい生活様式」が取り入れられ、「人との物理的な距離」をとることは感染症予防には必要不可欠なこととなっています。しかし、「人との心理的な距離」が遠くなり、差別やいじめにつながるようなことがあってはいけません。

日本赤十字社が新型コロナウイルス感染症には「3つの感染」があり、これらが負のスパイラルとしてつながることで、更なる感染の拡大につながっていくことを警告しています。第1の感染は病気そのものの感染、第2の感染は、完全に治癒できるという確証がないことによる不安と恐れへの広がり、第3の感染は、不安や恐れから感染症対策に関わる医師や罹患した方を日常生活から遠ざけようと差別して、人と人との「つながり」を壊していくことであると説明されています。そして、差別されるかもしれないという感情から病院への受診をためらうことで、感染が拡大していくことになる。これが新型コロナウイルス感染症の脅威であると提言されています。

1月28日(金)に臨時全校朝会を行いました。普段通り日常生活を送っていても、いつだれがどこで感染するかもしれない現状で、罹患してしまった方の思いに寄り添って行動することの大切さについて講話しました。



臨時全校朝会の様子

発熱症状など、身体の痛みや苦しさを和らげてくれるのは医師や看護師さん。

心のつらさ、しんどさを和らげていくのは、私たち教職員や子どもたち、そして、ご家族など、周りにいる人々。つまり、「私たち一人一人の行動」が大切であることを話しました。

子どもたちの真剣な眼差し、聴く態度を覗いていると、本校の子どもたちなら大丈夫。罹患した方の思いに寄り添い、行動してくれるだろう。そんな思いになりながら話を終えました。

3月は進級や進学への準備段階です。お世話になった方々へ感謝の思いをもつ場を設定して、ふりかえらせることは、コロナ禍の社会においては特に大切であると考えます。

そこで、今年度もありがたい集会を計画しました。お世話になった外部講師や地域関係者の方々をお招きして感謝の思いを伝えることを目的にして開催する予定でしたが、感染拡大防止の観点から、学校へお招きして感謝の思いを伝えることはできませんでした。そのため、お礼の手紙を書いて渡しました。

また、3月4日(金)には6年生を送る会を行う予定にしています。異年齢活動班による清掃活動や月1回実施の「とよちっ子班遊び」、運動会などの学校行事など、さまざまな場面で下学年は6年生にお世話になっています。感謝の思いを伝えるための活動の場が6年生を送る会です。

このような教育活動を設定することで感謝の思いが生まれ、人との心のつながりの大切さも感じていくことになると考えます。そして、コロナ差別が不合理であると考えられる人権感覚も養われていくのではないのでしょうか。

1年間のまとめとなる3月。6年生は卒業式、在校生は修業式を迎えます。お世話になった方々への感謝の思いを胸に刻み、学年の締めくくりをしてほしいと思います。 学校長 善村 龍昭